

第6次留萌市総合計画

〔平成29年度～令和8年度〕



第6次総合計画は、第5次総合計画の「市民が市政の主人公」という姿勢を継承しつつ、社会経済情勢の変化への対応や地方創生への取り組みとの整合性を図り、留萌市の50年後、100年後を見据えた次の10年間のまちづくりを進めていくため、全ての市民が夢や希望を持ちながら目指すまちの姿を共有し、その実現に向け、お互いに連携をして取り組んでいくための指針として策定したものです。

基本テーマ（都市像）

みんなでつくる まち・ひと・きぼう 次の時代へ続く留萌

この計画では、市民一人ひとりが幅広い分野で、主体的に生活の向上や留萌市が抱える様々な課題の解決に取り組むことで、今いる人々やこれから生まれてくる子どもたちが次の時代も住み続けたいと思える、さらには市外・道外・国外からも人々を惹きつける夢と希望にあふれたまちの将来像として「みんなでつくる まち・ひと・きぼう 次の時代へ続く留萌」を基本テーマ（都市像）とします。

留萌市人口ビジョン・総合戦略

留萌市では、国の方向性を踏まえ、人口減少の速度を抑制し、将来にわたって地域社会を維持していくため、「留萌市人口ビジョン」と「留萌市総合戦略」を平成27年10月に策定し、3本の柱のもと、人口の自然減と社会減の両面から減少の抑制に取り組み、2040年に14,678人（1,008人増）の人口維持と出生率2.07を目指しています。

留萌市総合戦略の柱（目指すべき将来の方向性）

魅力・やりがい留萌地域経済戦略	地場企業の強化や支援、農業や漁業・水産加工業の強みを活かした魅力とやりがいのあるしごとへの創出、新規起業しやすい環境整備により、留萌市で働きたいとおもえるようなまちづくりを目指します。
健康・賑わい留萌ブランド戦略	市民が、るもい健康の駅を中心とした健康でいきいきと安心して暮らせるまちづくりと、市民だけではなく、道内や全国から留萌市を訪れる人と交流することにより、それぞれの笑顔があふれ、元気に過ごせるまちづくりを目指します。
出産・子育て留萌サポート戦略	若者が留萌市で希望する結婚・出産・子育てを実現できるまちづくりを目指します。

4つの基本理念

総合計画の策定に当たっては、市民と行政が情報を共有し、協働で作業に取り組み、互いに満足度と実施意欲の高い成果が得られることを目的として、公募委員9名による市民会議を設置し、市民目線での第5次総合計画の検証をはじめ、市議会での検証結果と意見・要望を踏まえ、将来の目指すべき留萌像について協議を重ねてきました。

留萌市の50年後、100年後を見据えた次の10年間のまちづくりを進めていくため、次の4つの基本理念に基づき、まちづくりを進めていきます。

安全・安心なまち

台風や地震、津波などの自然災害や犯罪から市民の生命・財産を守るため、強靱化に向けた適切な基盤整備を計画的に実施するとともに、町内会などの地域コミュニティを基礎とした自主防災への意識が醸成された「安全・安心なまち」

充実した教育と健康のまち

幼児教育、高等学校教育との連続性に配慮しつつ、小中9年間を見通した一貫した質の高い教育が提供され、併せて、道内唯一の「健康の駅」などを拠点として市民の健康と福祉の増進を図る「充実した教育と健康のまち」

活力あるまち

市民自らが留萌の魅力を積極的に発信し、さらに地域産業の強化と起業しやすい環境づくりにより、新たな雇用が生まれ、内外から人々が集う「活力あるまち」

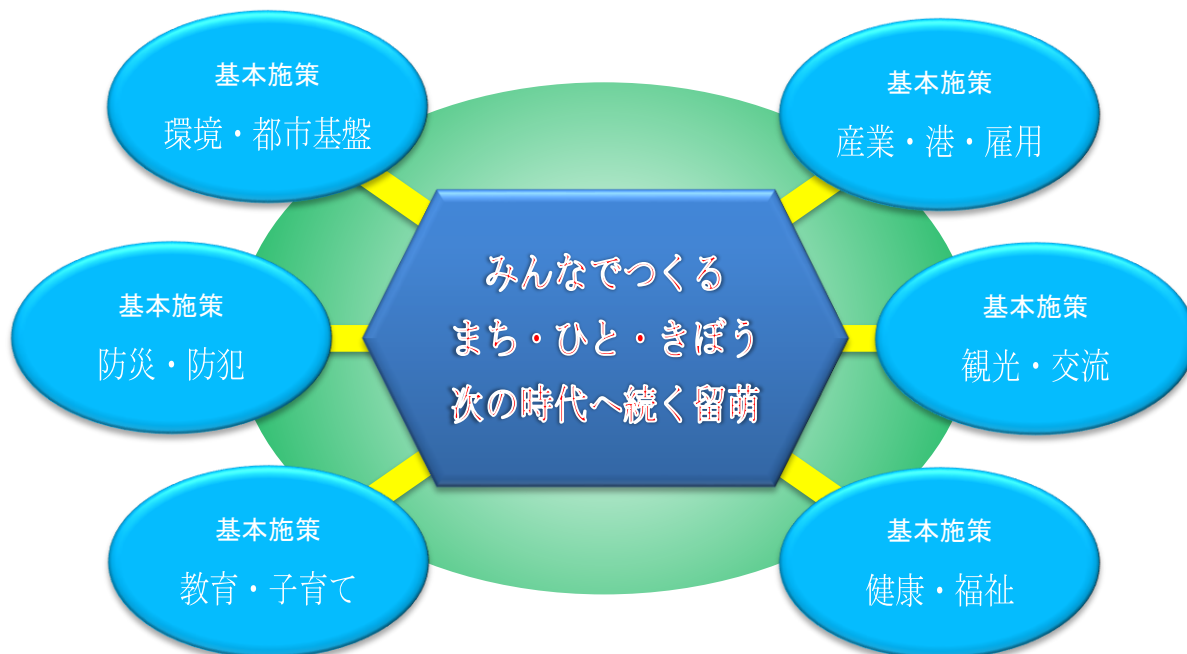
コンパクトなまち

市民や企業、行政が一体となって、長期的な視点で留萌の魅力を高め、生活拠点（まちの中心）・産業拠点・観光拠点が有機的につながる「コンパクトなまち」

基本構想・基本施策

第6次総合計画では、「市民に分かりやすく、かつメッセージ性のある内容にしていけることが大切である。」ということを中心に、市民会議から6つの政策区分で提案を受けました。

また、それぞれの政策は単独で成り立っているものではなく、つながりを持ち、連携していくことでより効果が増すものであり、広い視点に立った政策・施策の推進が重要です。



地域産業の活性化と起業の促進、働きやすい環境づくり

我が国の経済が、「右肩上がり」から「安定成長」の時代に移行し、これまで公共工事への依存が強かった北海道は、特に地域経済の自立が求められています。

留萌市においても、このような経済社会の環境変化の中、まちに活気を取り戻し、市民が安定した生活基盤を維持するためにも、地域経済の活性化や雇用の創出は不可欠です。



地域の特色を活かした産業創出



留萌港からの木材輸出



6次産業化の取り組み

このため、高規格幹線道路など陸上交通網の整備により、重要港湾留萌港を活かした人(交流)と物(物流)の拡大や地域産業の育成と強化、維持を目指し、地域経済を支える中小企業の経営支援や起業しやすい環境整備など、留萌らしい産業を創り出すとともに、日本海で獲れる魚介類や肥沃な大地で採れる農作物などの留萌の産物を、市民は積極的に消費するとともに市民自らが広告塔となり、広く留萌産品をPRするなど生産者、消費者、行政が一体となることで、新規就業者の受入拡大、6次産業化への支援や販路拡大など、農林水産業の振興が図られます。

また、「かずの子の日」制定をきっかけとした留萌の基幹産業である水産加工業の活性化や地域産業のチャレンジする環境、磨き上げ、掘り起こしに取り組めます。



かずの子の加工

施策1 地域産業の振興

- 地域産業が元気で、地域経済が活発なまちにすること
- 新しい雇用をつくり出し、市民の経済生活が安定したまちにすること

施策2 一次産業の進行と地産地消の推進

- 地域の食を支える生産基盤を守り、発展させること
- 農漁業・農漁村を支える新たな担い手を育成・確保すること
- 森林が有する公益的な機能を守り、維持させること
- 持続可能な漁業の操業体制を確立すること

施策3 港湾・物流の確保

- 市民に愛され、親しまれる港があるまちにすること
- 道北圏域を含めた物流と地域経済が活発なまちにすること

魅力あふれる留萌ブランドの発信とおもてなしの向上

観光は、消費拡大や新たな雇用の創出など地域への幅広い経済効果や交流人口の拡大に大きく貢献することが期待されます。

高規格幹線道路留萌インターチェンジ開通など交通アクセスの一層の向上により、道内各地からの誘客とともに、北海道を訪れるアジアを中心とした外国人観光客の増大が見込まれる中、こうした観光需要を取り込んでいくためにも積極的な情報発信や受入体制の整備などの取り組みが急務となっています。



市街地を見渡せる千望台



道北最大級のゴールデンビーチるもい



留萌港に入港する客船

留萌市には、歴史に育まれた文化や市民が愛着を持つ景観など様々な宝や魅力があります。このような観光資源を大切に育てるとともに広域的視点・連携の中で観光ルートの構築など、道内外に積極的に発信し、市民・企業・行政が連携・協力しながら「留萌らしい」観光を創りあげる必要があります。

このため、海水浴を中心とした夏の通過型観光から、滞在時間延長への取り組みや通年滞在型観光への脱皮を目指し、様々な業種が一体となり、まち全体のホスピタリティ（おもてなしの気持ち）を高めることで、留萌を知ってもらい、留萌に来ていただけるよう、留萌の評判を高めていく努力が必要です。



市外高校生による音楽合宿



屋内交流・遊戯施設「ちやいるも」



市内国際交流団体による交流イベント

さらに、観光による誘客はもとより、留萌市に今ある資源・施設と地域力を活用し、文化やスポーツなど幅広い視点に立った合宿や大会誘致など、宿泊を伴う交流人口の拡大に、行政と関係団体、市民が一体となって進めていく必要があります。

新しい人の流れ、新しい交流が生まれ、新しい産業に結び付いていくことを希求し、今できることを見極め、着実に成果の上がる施策に取り組めます。

施策 1 魅力の創造と発信

- 市民がまちの魅力を共有し、交流を深め、経済・文化が活発なまちにすること
- 船場公園・管理棟を核とした交流人口を拡大すること
- 市民に愛され、親しまれる港があるまちにすること

市民の自発的な課題解決と安心した地域福祉・地域医療の充実

市民が生涯を通じ、健康でいきいきとした生活を送るためには、互いに協力・連携しながら、まちづくりに取り組み、また、市民一人ひとりがライフステージに応じて、主体的な健康づくりに取り組んでいく環境づくりが大切です。このため、市民活動団体や町内会が地域の抱える課題の解決に向けた取り組みを進めることができるよう、積極的な周知による市民の参加意識の向上と活動支援制度の充実を図る必要があります。

また、留萌市では、道内唯一の「健康の駅」を拠点に、市民の健康づくりと健康増進に向けた予防医学に取り組んでいます。集団を長期にわたり観察・介入するコホート医学研究基盤を樹立し、そこに大学や企業の研究を誘致して地域の活性化を図っていますが、生涯を通じた健康づくりには、市民も率先して取り組まなければなりません。

さらに、超高齢社会に対応するため、市民一人ひとりが、医療や介護が必要な状態となっても、できる限り住み慣れた地域で安心して生活を継続し、その地域で人生の最期を迎えることができる環境、いわゆる「地域包括ケアシステム」の充実に取り組む必要があります。

併せて、地域センター病院の機能維持及び市内医療機関における医療スタッフの確保など地域医療の充実を図るとともに、いきがいづくりや自立を支える生活支援等による地域福祉の充実に向けた取り組みは今後も重要になってきます。

全ての市民が健康な心と体で、元気に暮らし、活力ある地域社会を目指し、市民が健康であることを願う「健康都市宣言」の趣旨に基づきさらなる施策に取り組めます。



道内唯一の健康の駅「るもい健康の駅」



地域センター病院の「留萌市立病院」

施策 1 協働による地域づくり

- 思いやりとぬくもりの地域コミュニティを再生すること
- 市民活動、市民参加、ボランティア活動が活発になること

施策 2 健康の増進と地域医療の充実

- 市民の健康を維持し、元気な市民がたくさんいるまちにすること
- 市民が安心して暮らせる医療環境を提供すること
- 高齢者がいきがいを持ち、安心して暮らせること

施策 3 地域包括ケアシステムの充実

- 要支援、要介護状態となっても自分らしく暮らせること

施策 4 地域福祉の充実

- みんなが支え合い安心して暮らせる「やさしいまち」をつくること

施策 5 社会保障の充実

- 医療費適正化による持続可能な国民健康保険を安定的に運営すること
- 後期高齢者医療制度を安定的に運営すること
- 市民の健康増進と経済的負担の支援をすること
- 万一の場合でも、市民が安心して生活できること

学校・家庭・地域が連携した教育と子育て環境の充実

幼児教育から高等学校教育までの連続性に配慮した教育環境の整備に努め、地域の教育力を積極的に取り入れた学校づくりによる「留萌ならではの」教育行政を推進することが重要です。

子どもたちが自ら考え、判断・行動し、急激に変化する激動の時代を生き抜くためには、主体的に未来を切り開く「自立」の力と、互いに支え合い高め合い、協働して社会を創造する「共生」の力を兼ね備えることが重要であり、より一層の取り組み強化が必要です。

併せて、市民がこころ豊かな生活を送り、生涯を通じて主体的に学び、その成果を活かすことのできる環境の充実が重要であり、施設の利便性向上を図る上でも、行政と関係機関がより一層連携を密にした社会教育の充実が必要になります。

子どもは家庭の希望であり、留萌の宝です。結婚、妊娠、出産から子育てまで切れ目のない支援を行い、出産・子育ての希望がかなうことが重要で、安心して子育てができる環境づくりが必要です。

留萌市の宝である子どもたちの学力と体力が向上し、豊かな心と健やかな体が育成されることを願い、また、子どもから高齢者までの学習機会、学習環境の充実に取り組めます。



令和4年度に移転改築した沖見保育園

施策1 学校教育の充実

- 幼児教育、高等学校教育との連続性に配慮しつつ、小中9年間を見通して一貫した質の高い教育を提供すること
- 互いに認め合い、支え合う心を育むこと
- 望ましい運動習慣や食習慣を定着させること
- 教職員の資質・能力を総合的に向上すること
- 地域の教育力を積極的に取り入れた学校をつくること

施策2 社会教育の充実

- 市民協働により、子どもから高齢者までの様々な学習ニーズに応える社会教育事業の推進と学習機会を拡充すること
- 子どもたちに基礎的な運動習慣が身につくよう生涯スポーツの基礎づくりに努めるとともに、身近な地域で誰もがスポーツを楽しむことができる生涯スポーツ社会の基盤をつくること
- 芸術・文化活動の促進と鑑賞機会の拡大、文化関係団体等を育成すること

施策3 教育環境の充実

- 児童生徒が安全で安心して学校生活を送ることができること
- 生涯にわたり学習・文化・スポーツ活動に取り組むことができる、安全・安心で質の高い教育環境を整備すること
- 児童生徒が登下校時に交通事故や犯罪に巻き込まれることがないよう、地域ぐるみで通学路の安全確保に努めること
- 子どもたちにとって望ましい教育環境を維持・向上させること

施策4 子ども・子育て支援の充実

- 子どもたちの夢・希望・笑顔で満ちあふれたまちにすること
- 子ども・子育て世帯が健康で豊かに生活できるまちにすること
- 仕事と子育ての両立を地域社会全体で応援するまちにすること
- 子どもたちが、心身ともに健康・健全に成長できるまちにすること

一人ひとりの安全意識の向上と地域のつながりの一層の強化

大地震や火山の噴火、台風や集中豪雨による水害や土砂災害など、毎年のように全国各地で自然災害が発生しています。

留萌市でも、これまでに昭和33年の元町大火をはじめ、昭和63年の留萌川氾濫による大洪水などの大きな災害に見まれ、平成25年の記録的な大雪による交通障害など常日頃からの災害に対する備えの重要性を実感してきました。この間、これらの災害を大きな教訓として、河川の改修、下水道の整備、消防力の強化に努め、「災害に強いまちづくり」に取り組んできました。

また、国においては、東日本大震災を教訓に、「防災」に加えて「減災(被害を抑える)」の視点がより重視されるようになっていきます。



市民による防災訓練



留萌市役所



留萌川



浄化センター

留萌市においては、今後とも、「より災害に強いまちづくり」を推進するために、市、防災関係機関、市民等が、ソフト・ハードの両面から様々な防災対策に取り組み、災害時における迅速で適切な対応ができる組織体制と危機管理のシステムづくりが重要です。

自分の命は自分で守るという「自助」を原則として、みんなのまちはみんなで守る「共助」、そして、防災関係機関が守る「公助」の一連の運用による防災機能の強化に向け、自主防災組織や企業とも連携した地域防災体制の確立を図っていく必要があります。

さらに防犯・交通安全に向け、特に子ども、高齢者、社会的弱者を守るため、定期的な巡回活動やイベントの開催、意識啓発活動、施設整備に取り組んでいかなければなりません。そうした誰もが安心して住み続けられるまちづくりを推進していきます。

施策1 安全・安心な地域づくり

- 思いやりとぬくもりの地域コミュニティを再生すること
- 市民活動、市民参加、ボランティア活動が活発になること
- 自然災害から市民の生命・財産を守るまちにすること

施策2 安全・安心な暮らし

- 市民が、安心(快適)で安全な生活環境で暮らせるまちにすること
- 市民の生命・財産を守るため災害に強い地域づくりをすること

施策3 安全・安心な都市機能

- 市民の生命・財産を守るため、インフラの老朽化対策、事前防災・減災を推進し、安全・安心な道路ネットワークを形成すること
- 市民の生命・財産を洪水から守るための河川・ダムが整備・管理され、市民が安心して暮らせるまちにすること
- 災害時における市の防災活動及び行政機能拠点を維持・向上させること

都市機能の効率的な集積と地域資源の利活用

人口が急速に減少し、超少子高齢社会が進展する中、市民の生命・財産を守るため、国土強靱化に向けた適切な基盤整備を計画的に実施すると同時に、留萌市が次の時代も持続的に発展していくためには、まちづくりそのもののあり方を見直していく必要があります。

このため、計画期間の10年間に市民や企業、行政が一体となって、留萌市全体の活力の回復と魅力を高める必要があります。



留萌市街地



神居岩総合公園



市道における排雪作業

キーワードは「コンパクトなまち」の実現です。そのためには①日常生活に関する公共機関・商業施設・学校・病院などの各種サービスが集積し、公共交通をはじめとした多様な移動手段により快適に行き来が可能な「生活拠点(まちの中心)」、②水産加工業や健康産業の誘致など留萌の強みを活かした地域産業が集積する「産業拠点」、③文化・歴史・風土・味など留萌ならではの魅力を活かした「観光拠点」などを定め、それぞれの拠点が機能を補いながら環境と調和し、道路や公共交通、ICTなどで有機的につながることが求められます。

今後は、市民一人ひとりが生活環境の向上と地域経済の活性化を実感できる、そうした「留萌らしいコンパクトなまち」の実現に向けた検討を進めなければなりません。

中でも留萌の海、山、公園などの自然や緑を大切にし、融和のとれた親しみのもてる環境の保全に努め、次の世代へしっかりと残していくことが重要です。

コンパクトで無駄のない、また利便性や効率化が図られ、誰もが快適なまちとなるよう取り組みます。

施策1 快適な住環境と自然環境

- 地球環境を守るために、自然にやさしい生活を送ること
- 市民が、快適で安全な生活環境で暮らせるまちにすること
- 安全で安定した水道水を供給し続けること
- 持続可能な下水道事業を推進し続けること
- 冬季の安全な道路環境確保のため、地域との協働による環境整備を進めること

施策2 快適な都市機能

- 自然とまちなかの調和のとれたまちにすること
- 活力と賑わいを持続できるまちにすること
- 効率性と利便性の高いまちにすること
- 生活拠点と観光拠点等を結ぶ道路網の充実、生活に身近な道路機能の向上や安全・安心な道路空間を確保するため、基盤整備を計画的に進めること
- 公園緑地や街路樹、花など緑を大切にし、また、公園施設の老朽化対策を推進し、安全で安心な都市環境を形成すること
- 森林や緑地に親しむ機会が増し、潤いとゆとりの都市空間があるまちにすること
- 市民に愛され、親しまれる港があるまちにすること
- 道北圏域を含めた物流と地域経済が活発なまちにすること
- 地域産業が元気で、地域経済が活発なまちにすること